いい出会い

北信越学生卓球連盟 副幹事長 谷井宏伎

　この度は、第8回日学連アゴラにおいて文章を掲載していただけますこと、誠に感謝いたします。

　私は、「いい出会いに恵まれている」と実感することがたくさんあります。中学、高校の時の先生方や、仲の良い友達、バイト先の大人の方々や同期の子たち、他にも様々な人との出会いに、私はとても恵まれてきました。恋愛的な出会いにだけ縁のない私ですが、今まで出会ってきた人たちのおかげで今の自分がいるのだと、心からそう思います。その中でも特に、卓球を通して出会った人との縁は、自分の人生に大きな影響を与えていると感じることがあります。

　中学生の時、地元の卓球クラブに所属していたのですが、そこで出会ったコーチ、先輩、同期、後輩とは、とても濃密な時間を共に過ごしました。コーチや先輩は、卓球を始めたばかりで下手な自分にも、親身になって教えてくれました。同期や後輩がいたから、週6の練習も弱音を吐かずに頑張ることができ、試合では多くの感動を共有することができました。中学生の時のこの出会いがあったからこそ、大学2年生になった今も、私は卓球を続けているのだと思います。

　大学では選手として卓球をするだけではなく、学連の役員として卓球に携わるようになり、出会う人の数が多くなりました。北信越学連の理事の方々や、日学連役員の皆さま、他学連の学生幹事や理事の方々など、卓球をしていなければ一生なかった出会いが、ここにはたくさんありました。そして、出会う人たち全員が、卓球が大好きで、やる気や熱意、向上心を持っており、それが私の卓球人生の中で、とても良い刺激になっています。

大学の卓球部には、向上心を持った仲間がたくさんおり、体を動かす程度でやれればいいや、という生半可な気持ちで入部した私も、その仲間の影響で頑張ることができています。練習に誰よりも真面目に、真剣に取り組む子や、週に4回しか体育館が使えないため、別の体育館に練習しに行こう、と連れて行ってくれる子など、彼らとの出会いがなければ、私は選手としての卓球は中途半端なままだったかもしれません。引退するまで彼らとともに切磋琢磨し、努力し続けたいと今は思います。

たった1つの出会いで人生が変わってしまうほど、出会いというのは不思議なもので、今までの出会いの1つでも欠けてしまえば、今の自分は存在していないと思います。私は、卓球という1つのスポーツを通して巡り会えたこれらの「いい出会い」を、一生大切にしたいです。

ご清覧いただきありがとうございました。